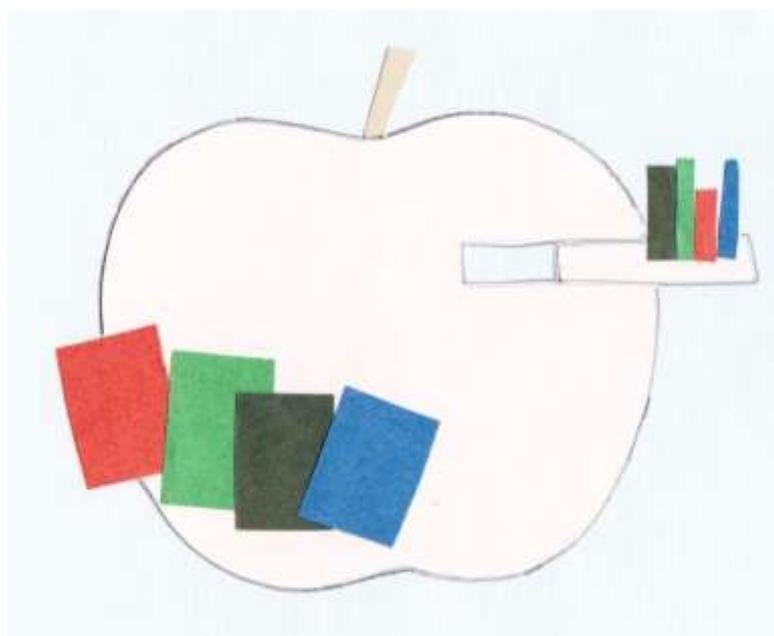


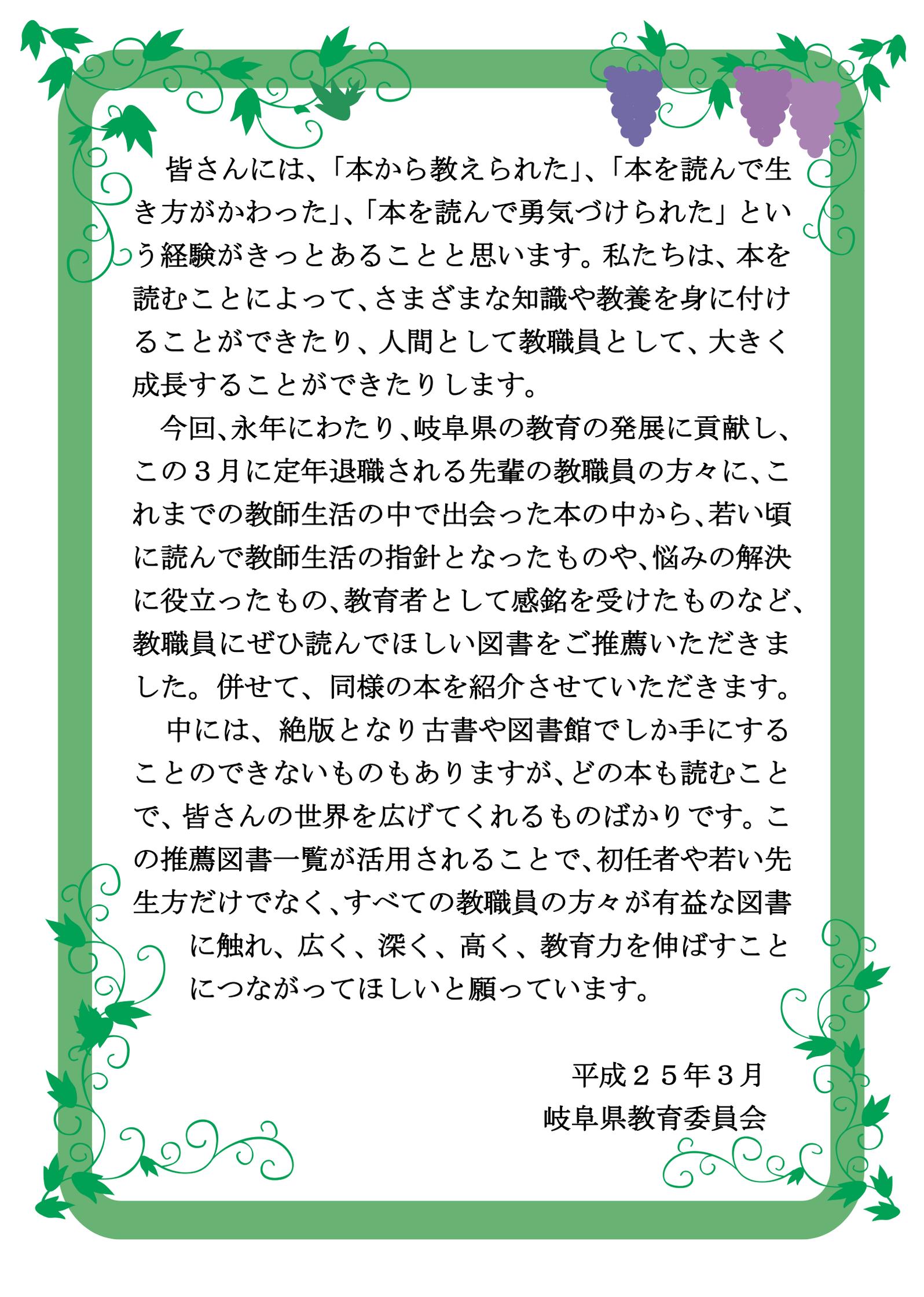
教職を歩むあなたに

明日を拓く本70選



岐阜県教育委員会

平成25年3月



皆さんには、「本から教えられた」、「本を読んで生き方が変わった」、「本を読んで勇気づけられた」という経験がきっとあることと思います。私たちは、本を読むことによって、さまざまな知識や教養を身に付けることができたり、人間として教職員として、大きく成長することができたりします。

今回、永年にわたり、岐阜県の教育の発展に貢献し、この3月に定年退職される先輩の教職員の方々に、これまでの教師生活の中で出会った本の中から、若い頃に読んで教師生活の指針となったものや、悩みの解決に役立ったもの、教育者として感銘を受けたものなど、教職員にぜひ読んでほしい図書をご推薦いただきました。併せて、同様の本を紹介させていただきます。

中には、絶版となり古書や図書館でしか手にすることのできないものもありますが、どの本も読むことで、皆さんの世界を広げてくれるものばかりです。この推薦図書一覧が活用されることで、初任者や若い先生方だけでなく、すべての教職員の方々が有益な図書に触れ、広く、深く、高く、教育力を伸ばすことにつながってほしいと願っています。

平成25年3月
岐阜県教育委員会

教職を歩むあなたに 明日を拓く本70選

【退職される校長先生より】

＜一般教養＞

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名
1	自由と規律 —イギリスの学校生活— (岩波新書 1963年)	池田 潔
2	プロジェクトX挑戦者たち (NHK出版)	NHKプロジェクトX制作班
3	だから、あなたも生きぬいて (講談社 2000年)	大平 光代
4	アメリカインディアンの教え (扶桑社文庫 1994年)	加藤 諦三
5 ※	ひと言の魅力 周りが笑顔で一杯になる107の話 (PHP研究所 1998年)	金平 敬之助
6	言志四録 (講談社学術文庫)	佐藤 一斎
7	涙が出るほどいい話 あのときは、ありがとう (河出書房新社 1996年)	社団法人「小さな親切」運動本部
8	寂聴 愛のたより (海童社 1989年)	瀬戸内 寂聴
9	しつけの知恵 手遅れにならないための100の必須講座 (PHP研究所 2003年)	多湖 輝
10 ※	ソニー革命 ブロードバンド戦略を築く男たち (プレジデント社 2002年)	立石 泰則
11	東井義雄一日一言 (致知出版社 2007年)	東井 義雄
12	発達障害と向き合う (幻冬舎ルネッサンス新書 2012年)	竹内 吉和
13	子どもが育つ魔法の言葉 (PHP文庫 2003年)	ドロシー・ロー・ノルト
14 ※	木のいのち木のこころ (草思社 1993年)	西岡 常一
15	マネジメント 基本と原則 (ダイヤモンド社 2001年)	P. F. ドラッカー
16	発達障害に気づかない大人たち (祥伝社新書 2010年)	星野 仁彦
17	指導者の条件 人心の妙味に思う (PHP研究所 1989年)	松下 幸之助
18 ※	なぜ (文藝春秋社 1976年)	松下 幸之助
19	「つなみ」の子どもたち (文藝春秋 2011年)	森 健
20 ※	日本のこころ、日本人のこころ (NHK出版 2004年)	山折 哲雄
21	バカの壁 (新潮新書 2003年)	養老 孟司

＜教職教養＞

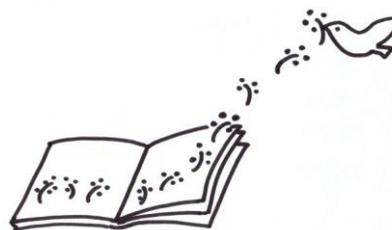
No.	図書名（出版社、発行年）	著者名
1 ※	共存のよるこび 中学校 学級担任の記録 (教育出版文化協会 1984年)	伊藤 勝行
2	新編 教えるということ (ちくま学芸文庫 1996年)	大村 はま
3	灯し続けることば (小学館 2004年)	大村 はま
4	子どもと学校 (岩波新書 1992年)	河合 隼雄
5	声の力 歌・語り・子ども (岩波書店 2002年)	河合隼雄、阪田寛夫、 谷川俊太郎、池田直樹
6	教師の生き方・考え方 (金子書房 1995年)	國分 康孝
7	授業入門 (人と教育双書 2006年)	斉藤 喜博
8 ※	くやる気への生徒指導 (小学館 1985年)	坂本 昇一
9 ※	教師の力量をどう高めるか (あゆみ出版 1984年)	坂本 泰造
10 ※	学級集団づくり入門第2版 (明治図書 1971年)	全国生活指導研究協 議会常任委員会
11 ※	生命 (いのち) をかたがって重いなあ (柏樹社 1975年)	福井 達雨
12 ※	僕アホやない人間だ (柏樹社 1969年)	福井 達雨
13	子どもが心開くときへと寄り添って おっちゃん和怒心館の十三年 (鳥影社 2010年)	松井 弓夫
14	子どもを動かす法則 (明治図書 1987年)	向山 洋一
15 ※	学級崩壊からの生還 (扶桑社 1999年)	向山 洋一
16	主体的学習入門 (明治図書出版 1968年)	村上 芳夫
17	先生のためのやさしいブリーフセラピー 読めば面接が楽しくなる (ほんの森出版 2000年)	森 俊夫

＜文 学＞

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名
1	にんげんだもの (文化出版局 1984年)	相田 みつを
2	隠された十字架 法隆寺論 (新潮社 1981年)	梅原 猛
3	わたしはひろがる 愛、平和、そして人間 (小峰書店 1994年)	岸 武雄
4	夜明け前	島崎 藤村
5	破戒	島崎 藤村
6	上杉 鷹山 (集英社文庫 1996年)	童門 冬二
7 ※	ジョニーは戦場に行った (角川書店 1971年)	ドルトン・トランボ
8	風の良寛 (文藝春秋 2004年)	中野 孝次
9	兎の眼 (理論社 1979年)	灰谷 健次郎
10	藤沢周平全集 (第25巻) (文藝春秋 2002年)	藤沢 周平
11	<花の詩図集> 鈴の鳴る道 (偕成社 1986年)	星野 富弘
12	詞集たいまつ (論評社 1976年)	むのたけじ

【教育委員会事務局より】

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名
1	奇跡と呼ばれた学校 国立大合格者30倍のみみつ (朝日新聞社 2011年)	荒瀬 克己
2	14歳の君へ どう考えどう生きるか (毎日新聞社 2006年)	池田 晶子
3	14歳からの哲学 考えるための教科書 (トランスビュー 2003年)	池田 晶子
4	「教えて考えさせる授業」を創る 基礎基本の 定着・深化・活用を促す「習得型」授業設計 (図書文化社 2008年)	市川 伸一
5 ※	森の精霊 シルヴァンの秘密 (オークハーツ 1996年)	稲本 正
6	街場の教育論 (ミシマ社 2008年)	内田 樹
7	下流志向 学ばない子どもたち 働かない若者たち (講談社文庫 2009年)	内田 樹
8	日本の教師に伝えたいこと (ちくま学芸文庫 2006年)	大村 はま
9	強く生きる言葉 (イースト・プレス 2003年)	岡本 太郎
10	希望の地図 (幻冬舎 2012年)	重松 清
11	脳が浮える15の習慣 記憶・集中・思考力を高める (NHK出版 2006年)	築山 節
12	14歳からの人生哲学 なんでも楽しくなる35のヒント (PHP研究所 2012年)	中谷 彰宏
13	学校改革の史的原像：「大正自由教育」 の系譜をたどって (黎明書房 2008年)	中野 光
14	坊っちゃん	夏目 漱石
15	決断力 (角川Oneテーマ21 2005年)	羽生 善治
16	カリスマ体育教師の常勝教育 (日経BP社 2003年)	原田 隆史
17	てん (the dot) (あすなる書房 2004年)	ピーター・レイノルズ (訳 谷川俊太郎)
18 ※	教えることと学ぶこと (小学館 1979年)	林竹二/灰谷健次郎 (対談)
19	ゾウの時間ネズミの時間 (中公新書 1992年)	本川 達雄
20	知的生活の方法 (講談社現代新書 1976年)	渡部 昇一



よき書物を読むことは、過去の最も優れた人と
会話を交わすようなものである
(デカルト)

※は、現在絶版となっているもの。

【退職される校長先生より】

<一般教養>

※は、現在絶版となっているもの

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
1	自由と規律 ーイギリスの学校生活ー (岩波新書 1963年)	池田 潔	戦前の英国のパブリックスクールからケンブリッジ大学に学んだ著者の経験に基づいた本です。「自由は規律を伴い、そして自由を保障するものが勇気であることを知る」「スポーツマンシップとは・・・」など含蓄のある言葉が次々と出てきます。
2	プロジェクトX挑戦者たち (NHK出版)	NHKプロジェクトX制作班	新しい発想、出来ない事への挑戦、将来を見据えた行動が多く紹介され、同じ日本人として感動でき、また勇気付けられます。(全21巻)
3	だから、あなたも生きぬいて (講談社 2000年)	大平 光代	いじめ、友達の裏切り、割腹自殺、組長の妻、そこから立ち直って弁護士となっていた著者。いじめに対する憤りや、目標に向かってひたむきに努力する姿に感動する一冊です。
4	アメリカインディアンの教え (扶桑社文庫 1994年)	加藤 諦三	アメリカインディアンの子育てについて著者が解説しています。温かい思いやりの中で子どもは育つことなどを教えてくれています。
5 ※	ひと言の魅力 周りが笑顔で一杯になる107の話 (PHP研究所 1998年)	金平 敬之助	短い。でも、聞けば嬉しい。短い。でも、読めば心が和む。日常生活でいろんな言葉に出会う。周りが笑顔でいっぱいになる107の話です。身近で聞いた「こんなひと言」を中心にまとめた本です。
6	言志四録 (講談社学術文庫)	佐藤 一斎	恵那岩邑藩出身の儒学者である佐藤一斎の随想であり、指導者のための指針として有名です。「少にして学べば即ち壮にして為すことあり・・・」の三学戒が特に知られていますが、その内容は自らを修養する言葉にあふれています。
7	涙が出るほどいい話 あのときは、ありがとう (河出書房新社 1996年)	社団法人「小さな親切」運動本部	全国展開された「小さな親切」運動の中で、投稿された短編作品です。心温まる話が123点あり、子どもたちへの読み聞かせに有効でした。
8	寂聴 愛のたより (海竜社 1989年)	瀬戸内 寂聴	「生かされて生きるとは」「愛するとは」「真の教育とは」について、優しく語りかけてくれます。心が元気になり、明日もがんばる力が湧いてくる一冊です。

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
9	しつけの知恵 手遅れにならないための100の必須講座 (PHP研究所 2003年)	多湖 輝	若い時の高校時代に頭の体操を楽しく読みました。何十年も経って、偶然同じ著者のこの本を書店で見つけ、読んだものです。学習習慣の育成が、担任当時も管理職になってからも、学びの土台として必要ではないかと感じてきましたが、生活する中での「しつけ」がその基本と考えます。生活の中での様々なしつけに関わる考え方や子どもに対する言葉かけを考えさせられました。
10 ※	ソニー革命 ブロードバンド戦略を築く男たち (プレジデント社 2002年)	立石 泰則	ブロードバンド時代に、ソニーはどのようなネットワークビジネスを展開しようとしているのか。創始者「井深」氏の奮闘、グローバルな視野、時代が大きく動くワクワク感などが感じられます。
11	東井義雄一日一言 (致知出版社 2007年)	東井 義雄	教師として自分が成長していく時、その根幹を築く源となりうる本です。子どもや職員に対して語る時に使える言葉が散りばめられています。
12	発達障害と向き合う (幻冬舎ルネッサンス新書 2012年)	竹内 吉和	巻末に「優しさを取り戻す第一歩は、『発達障害に対する正しい科学的認識を持つこと』です。『知識のない愛は力にはならない』のです」と締めくくってあります。人間愛に満ちた、大変奥の深い書物です。
13	子どもが育つ魔法の言葉 (PHP文庫 2003年)	ドロシー・ロー・ノルト	詩「子は親の鏡」の一行一行の内容が具体的にわかりやすく書かれています。親だけでなく、教師にも当てはまる内容です。
14	木のいのち木のこころ (草思社 1993年)	西岡 常一	法隆寺金堂、薬師寺金堂等の復興や再建を果たした宮大工棟梁としての職人魂や教えることの意味等が記述されています。教師も一種の職人であるのとらえると参考になります。
15	マネジメント 基本と原則 (ダイヤモンド社 2001年)	P. F. ドラッカー	会社経営を学校経営に重ねて読むと興味深いです。『もしも高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』を読んでからこの書を読むと具体的にイメージができます。
16	発達障害に気づかない大人たち (祥伝社新書 2010年)	星野 仁彦	子どもだけに現れるものではなく、大人でも出現している発達障がい。認識と対応の仕方などを正しく知ることは、職員指導や保護者との対応時に参考になります。この本には、続編も発刊されています。

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
17	指導者の条件 人心の妙味に思う (PHP研究所 1989年)	松下 幸之助	経営者としてさまざまな体験をもつ著者が、日本と中国の古今の政治家、武将、経営者などの先人から学んだ指導者としての在り方102カ条が書かれています。
18 ※	なぜ (文藝春秋社 1976年)	松下 幸之助	「日本社会の混乱と混迷は、日本人としての自己認識を欠くようになったことが原因」と主張した筆者。その後、30年を経て、益々混迷を深めている今日、何を考えるべきか、指針を与えてくれる一冊です。
19	「つなみ」の子どもたち (文藝春秋 2011年)	森 健	「つなみ」の作文に書かれなかった10の家族の喪失と再生のドキュメントです。東日本大震災、その後の復興への取組、日本人として、決して忘れてはいけないことです。
20 ※	日本のこころ、日本人のこころ (NHK出版 2004年)	山折 哲雄	日本人の心の系譜を自然環境や時代の流れからたどり、日本人らしく生きることの奥深さが理解できる本です。
21	バカの壁 (新潮新書 2003年)	養老 孟司	著者は、「人はみな異なった世界観を持っている」と人間の行動を $Y=aX$ で表し、論じています。数式で、人間の思いや行動を一般化する面白さがわかります。(Y=情報に対する反応、X=脳に入ってきた情報、a=情報に対する興味関心)

<教職教養>

※は、現在絶版となっているもの

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
1 ※	共存のよろこび 中学校 学級担任の記録 (教育出版文化協会 1984年)	伊藤 勝行	実践者として長年の経験から導き出された私たち教師への指針がたくさん示されています。どこを読んでも教育の本質を突いている一冊です。
2	新編 教えるということ (ちくま学芸文庫 1996年)	大村 はま	若い頃、先輩教師に薦められて読みました。「教師として、本当に『教える』とはどういうことなのか」という教育の原点を、この中の「教えるということ」という著書から学びました。
3	灯し続けることば (小学館 2004年)	大村 はま	「子どもは身の程を忘れてといたいほど、伸びよう、伸びたいと思っている。教師は子ども以上に研究や研修をして伸びようという魂を持って」等、教師としてどうあるべきかを深く見つめ問いかけています。教材や子どもを見る眼の鋭さ、厳しさから学ぶことが多く、何より“教師であり続けることの厳しさ”を教えられた一冊です。
4	子どもと学校 (岩波新書 1992年)	河合 隼雄	不登校のお子さんをもつ保護者によくプレゼントしました。子どもの心の葛藤や成長がよくわかります。臨床心理学者として子どもの心の世界に長年接してきた著者が、子どもと学校の新しい関係を創造する道を語っています。
5	声の力 歌・語り・子ども (岩波書店 2002年)	河合隼雄、阪田寛夫、谷川俊太郎、池田直樹	今、声への関心が高まっています。その中で、現代における声の可能性とは何でしょうか。臨床心理学者・童話作家・詩人・声楽家と声の魅力を語るにふさわしい4人が、子どもの文化を軸に「声」「歌」「語り」を論じています。
6	教師の生き方・考え方 (金子書房 1995年)	國分 康孝	教職生活をより充実させるための生徒の見方や接し方、同僚や上司とのつきあい方、授業の在り方など。自分の言動を見直すきっかけが得られます。
7	授業入門 (人と教育双書 2006年)	斉藤 喜博	群馬県島小学校の校長としての実践を通して、教師としての仕事の在り方を示しています。一貫して「授業」を追究した著者の力のある作品です。
8 ※	<やる気>の生徒指導 (小学館 1985年)	坂本 昇一	山本五十六の名言「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ」のもとに、生徒にやる気を育てる指導を具体的に示してあります。

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
9 ※	教師の力量をどう高めるか （あゆみ出版 1984年）	坂本 泰造	「信頼・肯定・共感」を土台にして、教師の指導力を高めるための手立てが具体的、実践的に記述されており、参考になります。
10 ※	学級集団づくり入門第2版 （明治図書 1971年）	全国生活指導研究 協議会常任委員会	他を意識し、他と関わる能力は、これからの社会を生き抜く重要な”生きる力”です。その力を付ける手段として「集団づくり」の手法は有効だと考えます。「班・核・討議」「集団あそび」等、今こそ参考にすべきことです。
11 ※	生命（いのち）をかつぐって重いなあ （柏樹社 1975年）	福井 達雨	滋賀県に知的障がいのある人たちの施設「止揚学園」を創られた福井達雨氏の著作です。「子どもに生かされ、子どもを生きる。ここに教育の本質がある」と言う著者。その教育実践が記されています。
12 ※	僕アホやない人間だ （柏樹社 1969年）	福井 達雨	滋賀県に知的障がいのある人たちの施設「止揚学園」を創られた著者の最初の著作です。「目に見えるものは滅び、目に見えないものは、永遠に続く」この言葉を心にもち、重度の知的障がいの子どもたちとともに、真剣に歩んだ教育実践が記されています。
13	子どもが心開くときへと寄り添って おっちゃん和怒心館の十三年 （鳥影社 2010年）	松井 弓夫	高校の校長を退職後、八百津町に「怒心館」を開き、不登校や問題を抱える子どもたちを受け入れ、ともに生活しながら子どもたちを自立させていった著者の記録です。いわゆる「教育書」ではありませんが、読みやすい中にも生徒指導の基本が示されています。
14	子どもを動かす法則 （明治図書 1987年）	向山 洋一	子どもを動かす基本的な教育技術がていねいに書かれています。具体的な指導方法が簡潔に書かれており、日々の実践に役立ちます。
15 ※	学級崩壊からの生還 （扶桑社 1999年）	向山 洋一	荒れた学級を立て直した40人の現役教師の記録です。悩み苦しむ中に本当の解決策があったことを教えてくれます。
16	主体的学習入門 （明治図書出版 1968年）	村上 芳夫	学習指導の在り方について悩んでいた時に出会った本です。子どもを主体的に学習させる意義やその実践が紹介されています。
17	先生のためのやさしいブリーフセラピー 読めば面接が楽しくなる （ほんの森出版 2000年）	森 俊夫	カウンセリング観が広がり、深まり、考え方を転換する本であり、目からうろこが落ちる本です。ブリーフセラピーのエッセンスがぎゅっと詰まっています。

<文学>

※は、現在絶版となっているもの

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
1	にんげんだもの （文化出版局 1984年）	相田 みつを	あたりまえの言葉の奥にある、著者のものの見方・感じ方に心揺さぶられ、時には、はっと気付かされることもありました。その一節にふれながら、子どもたちに語ったり、学級目標と結びつけて教室前面に掲げたりもしました。著者がこんなにも広く知られる以前の事です。
2	隠された十字架 法隆寺論 （新潮社 1981年）	梅原 猛	法隆寺は聖徳太子の怨霊を鎮魂する目的で藤原氏が建てたと様々な証拠を挙げ、著者の仮説を論証していく一冊です。「歴史の見方を初めて知った」という意見もいただきました。
3	わたしはひろがる 愛、平和、そして人間 （小峰書店 1994年）	岸 武雄	子どもの心が成長していく様子を具体的な場面を挙げながら、詩の形式で表現しています。卒業する6年生には読ませて考えさせたい作品です。
4	夜明け前	島崎 藤村	作者自身のふるさと馬籠を舞台にした歴史小説。幕末から維新にかけての動きが実感できます。
5	破戒	島崎 藤村	主人公は被差別部落出身の教師。悩みながら自分の身分を明かし、そのために教師を辞めてテキサスに旅立つこととなります。つらさを乗り越える勇気をもらいました。
6	上杉 鷹山 （集英社文庫 1996年）	童門 冬二	上杉鷹山はどん底の米沢藩を立て直し、価値ある理想の国を創り上げました。優れた実践力と思いやる心で信頼を集めていった生涯が書かれています。
7 ※	ジョニーは戦場に行った （角川書店 1971年）	ドルトン・トラン ボ	戦争で両手、両足、目、耳、鼻、口を失った男の物語です。最後は、ただ一つの伝達手段まで奪われる無惨さ。生きるとはどういうことか考えさせられました。
8	風の良寛 （文藝春秋 2004年）	中野 孝次	平和と繁栄の中にありながら幸福感の薄い日本人。この対極で、生涯「無欲と無一物」を貫き、人々から愛され親しまれた江戸末期の僧良寛。良寛の姿を通して、自分の心を見つめさせてくれる一冊です。

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
9	兎の眼 （理論社 1979年）	灰谷 健次郎	子どもたちに対して時として傲慢になってしまう自分を立ち止まらせる力を与え、子ども理解の大切さを教えてくれました。
10	藤沢周平全集（第25巻） （文藝春秋 2002年）	藤沢 周平	どの作品も楽しく、読んでいるうちに、人間の生き方（正義、耐えることの大切さ、誠実さ）について深く考えさせられます。
11	<花の詩図集> 鈴の鳴る道 （偕成社 1986年）	星野 富弘	手足の自由を失い、口に筆をくわえて詩画を描き続ける著者の作品と折々の随筆が、読む人の感性をゆさぶります。
12	詞集たいまつ （論評社 1976年）	むのたけじ	著書の604の洞察に富んだ言葉、生き方の指針となる言葉が収められています。（全6巻）

【教育委員会事務局より】

※は、現在絶版となっているもの

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
1	奇跡と呼ばれた学校 国公立大合格者30倍のひみつ (朝日新聞社 2011年)	荒瀬 克己	「すべては君の『知りたい』から始まる」というモットーを掲げ、荒廃した学校を再生した、教育改革・学校改革・授業改革について書かれた本です。熱血校長の、自伝かつ決意表明の一冊です。
2	14歳の君へ どう考えどう生きるか (毎日新聞社 2006年)	池田 晶子	「この宇宙に私が生きて死ぬとはどういうことか」、「よく生きるとは如何なることか」、存在の不思議と人生の意味をひたすら問い続けた究極の思索者・池田晶子氏の代表作です。悩み多き中学生、高校生にも是非読んで欲しい本ですが、同時に先生、保護者にも、是非とも目を通していただきたいです。「受験の役には立ちませんが、人生の役には必ず立ちます」
3	14歳からの哲学 考えるための教科書 (トランスビュー 2003年)	池田 晶子	大学入試で出題されたり、全国の学校で副読本として活用されるなど、現代の古典ともいえる不朽の名著。「14歳の君へ」からさらに踏み込んで思索を深める際の「考えるヒント」を提供してくれます。「帰ってきたソクラテス」池田晶子氏の小林秀雄氏ばりの力強い文章は、我々に生きる勇気と感動を与えてくれます。
4	「教えて考えさせる授業」を創る 基礎基本の定着・深化・活用を促す「習得型」授業設計 (図書文化社 2008年)	市川 伸一	学力差がある現実を前提に、どの子にも確かな理解・定着・参加が生まれる授業を創るにはどうすればよいのかを明らかにした本。教科書を活用して定着を図る学習方法を解説してあります。
5 ※	森の精霊 シルヴァンの秘密 (オークハーツ 1996年)	稲本 正	「いじめ」られた子どもの側の心理が理解できる小説です。
6	街場の教育論 (ミシマ社 2008年)	内田 樹	戦後の教育と日本の伝統教育を、新しい視点から解釈した人間的常識にのっとった教育論です。
7	下流志向 学ばない子どもたち 働かない若者たち (講談社文庫 2009年)	内田 樹	戦後の憲法と教育基本法、そして資本主義にのっとって教育されてきた子どもたちの実体をわかりやすく解明した本です。

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
8	日本の教師に伝えたいこと （ちくま学芸文庫 2006年）	大村 はま	教えること責任と厳しさ、子どもに力を付けるためにどのような工夫をすることができるのか等、教師としてもつべき哲学を学ぶことができる作品です。
9	強く生きる言葉 （イースト・プレス 2003年）	岡本 太郎	元気と力が出る岡本太郎の言葉集。「他人が笑おうが笑うまいが自分の歌を歌えばいいんだよ」等、短文だが味があります。
10	希望の地図 （幻冬舎 2012年）	重松 清	東日本大震災の被災地取材し、そこに新たな「人としての生き方」「次の世代への継承」を見出すドキュメントノベルです。
11	脳が冴える15の習慣 記憶・集中・思考力を高める （NHK出版 2006年）	築山 節	人の脳は、どんな状況下で機能を制限されるのか、また活性化するために必要な習慣は何かについて書かれています。記憶力・集中力・思考力を高めるための生活習慣について医学的に分析してあります。
12	14歳からの人生哲学 なんでも楽しくなる35のヒント （PHP研究所 2012年）	中谷 彰宏	しんどい現実をたくましく生きる。ハッピーな「ものの考え方・見方」をアドバイス。14歳向けに書いてありますが、大人でも通じます。
13	学校改革の史的原像：「大正自由教育」 の系譜をたどって」 （黎明書房 2008年）	中野 光	視力を失った著者が自身の研究課題をまとめたものです。著書の内容は教育が抱える今日的な課題について、大正時代の教育にその手がかりの一つがあると考え編纂してあります。
14	坊っちゃん	夏目 漱石	いわずもがな「教師の初心」が伝わってきます。今一度、読み直してほしい小説です。
15	決断力 （角川oneテーマ21 2005年）	羽生 善治	棋士界の第一人者である羽生善治氏が、勝負の流れ、集中力、情報化社会における「捨てる」技術、才能などのテーマについて、自分自身の言葉で実例を例示しながら率直に語っておられます。物事の考え方等を示してくれる一冊です。
16	カリスマ体育教師の常勝教育 （日経BP社 2003年）	原田 隆史	著者は、大阪の荒れた公立中学から7年間で13回もの陸上日本一を生みました。陸上選手の育成実践を通して、マネジメントの発想から、心を鍛えて他人に頼らない自立型人間を育成するためのメソッドが紹介されています。

No.	図書名（出版社、発行年）	著者名	推薦の言葉
17	てん (the dot) (あすなろ書房 2004年)	ピーター・レイノ ルズ (訳谷川俊太郎)	絵を描くのが嫌いな主人公がなぜ天才画家になったのか。苦しまぎれに描いた「てん」の意味を知ったことで、運命が大きく変わります。「認める」ことの意味、素晴らしさを端的に綴った絵本です。
18 ※	教えることと学ぶこと (小学館 1979年)	林竹二／灰谷健次 郎 (対談)	「いま、人間の教育をどのように取り戻すのか」。教育について、学校の在り方についての著者2名の対談です。教育の普遍的な課題、問題について、深く考えさせられる作品となっています。
19	ゾウの時間ネズミの時間 (中公新書 1992年)	本川 達雄	生き物は大きさによって心臓の鼓動の速さが異なる。それによって寿命が決まっている。生命の神秘を感じ、感動することができる一冊です。
20	知的生活の方法 (講談社現代新書 1976年)	渡部 昇一	あわただしい日常生活の中で、自分の時間をつくり、情報を整理し、自分の発想に結び付けていくにはどうしたらよいか。読書の技術やカードの使い方など、発汗は古いが今の時代にも通ずる示唆に富んだ一冊です。